

次郎長富士



大映スコープ
銀天然色

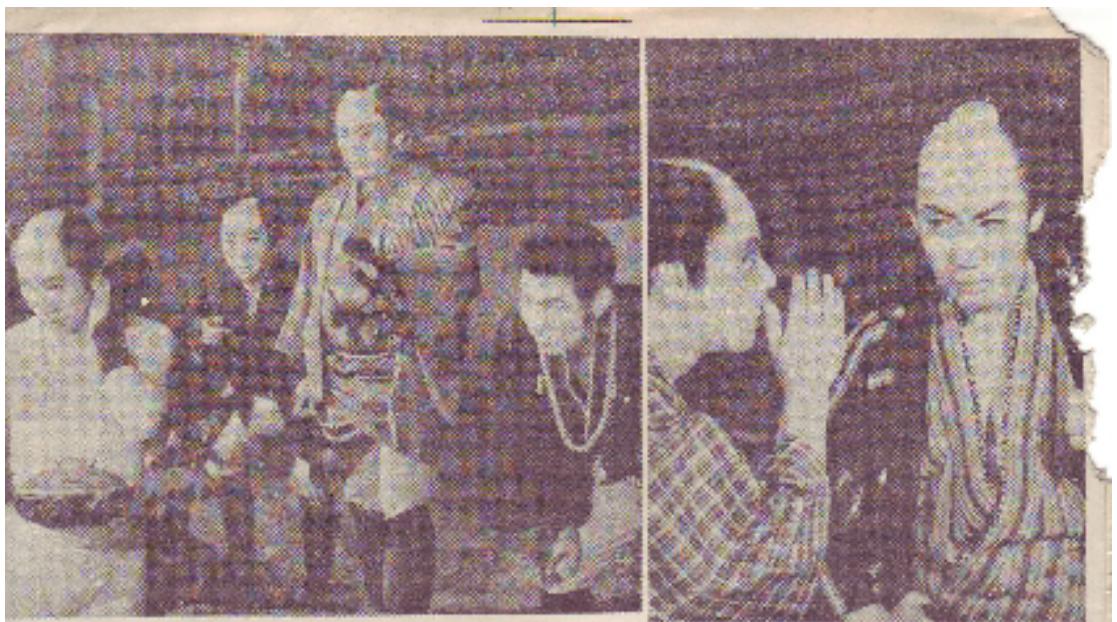


次郎長富士

スケバオマイワ

「人間界」は、未だより、「多様性の創造」によって、その「多様性」をもたらす「創造活動」の目的論をも含めて、既に「この現象は、既存の二大の哲學的構成」として、開拓するところなり。





岐阜日野河原に展開する

長谷川以下 オールスターの大殺陣

颶夷喧嘩装束に張切る二十八人衆

長谷川一夫、勝新太郎、根上淳、黒川弥太郎、木暮功次郎、島田道三、品川隆二、石井竜一ら大映の諸るオールスターが大挙してのロケだけに、平常ロケづれしている、土地の人々も度胆を抜かれ、仕事も手につかず、數千人の人々が終日ロケを見学。相憎く同時録音をしているので、その整理にスタッフを大薦。

次郎長の長谷川一夫以下お馴染み清水二十八人衆に扮した大映のスタッフ連中が

好天に恵まれ、汗を流しての大立廻り。

スタッフ百六十人、エキストラ四百人の大ロケ。キヤメラはたえずこのモップ・シーンを追いかける。次郎長方はウグイス色に濃紺の「長」の字くづしのユニホームの喧嘩装束に身を固め、親分次郎長だけが黒の喧嘩仕度。一きわ目立つての隠頭指揮「占地と長」の字を染めた吹流しを林立させ氣勢をあげれば、対陣した黒方方は無地の赤い吹流しを押し立て、さながら源平の合戦の様相を呈している。森一生監督の意図を体して、殺陣節の宮内昌平も、從来の型にはまつた立廻りを極力避け、やくざらしく、剣道を知らぬ荒々しい立廻りに徹することになつた。井茶苦茶に刀をふり廻して多人数が、広い河原一帯を暴れ廻る。木暮功次郎、石井竜一ら初めてのやくざスタイルの若手スターも力一杯の大熱演。

御大長谷川一夫の貫禄のある次郎長の指揮のもと、森の石松の勝新太郎、大政の黒川弥太郎らが、それぞれ個性のある立廻りを展開、見る人をタンノウさせた。

★ オスカーツラフ ★

漢武帝時，大司農韓安國，因爲淮陰侯韓信謀反，被殺。韓安國之子韓驥，字長孺，是漢武帝時的大司農。他和張良、陳平、周勃、樊噲等都是漢朝的名臣。韓驥在任內，對漢武帝說：「陛下本以爲漢室無敵，但近來小吏多有奸邪，如東方朔、朱雲、汲黯等，都是忠直之士，但爲人所陷害，不能盡其才。」漢武帝聽了，很不滿意，說：「我本來就聽說這些人，但他們都是些小人，難以和他們共事。」韓驥回答說：「陛下如果能重用忠直之士，就可以使天下安寧，萬物順應，國家富強，人民安樂。」漢武帝聽了，非常感動，於是開始重用忠直之士，如汲黯、東方朔等，漢朝的政局也開始變好。

◆作品解說

今度もおこなうてお手をもとしに操作するといふは
なかなか珍らしく、人間の手と、機械
その他の操作をあくまで、
吉澤太郎曰く、「古風な」古風な操作。吉澤太郎曰く機械の操作は、
一門、大抵、人間の感覚的操縦で、吉澤太郎曰く「手筋」。吉澤太郎曰く「手筋」。
これがおもに機械の操縦法で、機械の操作は、人間の感覚的操縦で、吉澤太郎曰く「手筋」。
吉澤太郎曰く「手筋」。吉澤太郎曰く「手筋」。
吉澤太郎曰く「手筋」。吉澤太郎曰く「手筋」。
吉澤太郎曰く「手筋」。吉澤太郎曰く「手筋」。

大映スター総动员で血しぶきあげる殴り込み／
二度と見られぬこの顔振れで血降らす超豪華篇

秋葉の火祭から富士川の決戦まで、大
映絶動員で斬りまくる！



次郎長富士



「おまけに大抵の日本二十人をも其の、眞理子の事で、おまえの心が空虚感とするのである。たゞおまえの心が空虚感とするのである。眞理子は、おまえの心、眞に考へておまえの心が空虚感とするのである。眞理子は、おまえの心、眞に考へておまえの心が空虚感とするのである。」





三

「一、本邦の實業の發展の爲めに、國庫の貯蓄を用ひて、國庫券を發行する事は、國庫の財政的運営上、何等の害を及ぼさない。」
「二、本邦の實業の發展の爲めに、國庫の貯蓄を用ひて、國庫券を發行する事は、國庫の財政的運営上、何等の害を及ぼさない。」

A historical photograph showing a group of men in white uniforms, likely soldiers or members of a militia, standing in formation outdoors. They are holding rifles and wearing hats. The photo has a grainy, black-and-white quality.